

デーヴォ ガイド



2024.4.15-21

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

L T G Guide

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship



6:14 こうして、ソロモンは神殿を建て、これを完成させた。

6:15 彼は神殿の内側の壁を杉の板でおおい、神殿の床から天井の壁に至るまで、内側を板でおおった。なお神殿の床は、もみの板でおおった。

6:16 それから、彼は神殿の奥の部分二十キュビトを、床から天井の壁に至るまで杉の板でおおった。このようにして、彼は神殿に内殿、すなわち至聖所を設けた。

6:17 神殿の手前側の本殿は四十キュビトであった。

6:18 神殿内部の杉の板には、瓢模様が花模様で浮き彫りにされていて、すべては杉の板で、石は見えなかった。

6:19 内殿は神殿内部の奥に、【主】の契約の箱を置くために設けた。

6:20 内殿の内部は、長さ二十キュビト、幅二十キュビト、高さ二十キュビトで、純金でこれをおおった。さらに杉材の祭壇も純金でおおった。

6:21 ソロモンは神殿の内側を純金でおおい、内殿の前に金の鎖を渡し、これに金をかぶせた。

6:22 神殿全体を隅々まで金でおおい、内殿に関わる祭壇も全体を金でおおった。

6:23 内殿の中にオリーブ材で二つのケルビムを作った。その高さは十キュビトであった。

6:24 ケルビムの一方の翼は五キュビト、もう一方の翼も五キュビト。翼の端から翼の端までは十キュビトであった。

6:25 もう片方のケルビムも十キュビトあり、両方のケルビムは全く同じ寸法、同じ形で

あった。

6:26 片方のケルビムの高さは十キュビト、もう片方のケルビムも同じであった。

6:27 ケルビムは神殿内部に置かれた。ケルビムは翼を広げていて、片方のケルビムの翼は一方の壁に届き、もう片方のケルビムの翼はもう一方の壁に届き、また両者の翼は神殿の真ん中に届いて、翼と翼が触れ合っていた。

6:28 ソロモンはこのケルビムに金をかぶせた。

6:29 神殿の四方のすべての壁には、奥の間も外の間も、ケルビムとなつめ椰子の木と花模様の浮き彫りを彫った。

6:30 神殿の床は、奥の間も外の間も金でおおった。

6:31 ソロモンは内殿の入り口を、オリーブ材の扉と五角形の戸口の柱で作った。

6:32 その二つのオリーブ材の扉に、ケルビムとなつめ椰子の木と花模様の浮き彫りを彫り、金でおおった。ケルビムとなつめ椰子の木の上に金を張り付けたのである。

6:33 同じように、本殿の入り口にも四角形のオリーブ材で戸口の柱を作った。

6:34 また、もみの木で二つの扉を作った。片方の扉の二枚の戸は折り畳み戸、もう片方の扉の二枚の戸も折り畳み戸であった。

6:35 ケルビムとなつめ椰子の木と花模様を彫り付け、その彫り物の上に、ぴったりと金を張り付けた。

6:36 それからソロモンは、切り石三段と杉の角材一段の仕切りで内庭を造った。

6:37 第四年のジブの月に、【主】の宮の礎を据え、

6:38 第十一年のブルの月、すなわち第八の

月に、神殿のすべての部分が設計どおりに完成した。七年かけて建てたのである。

神殿の内部は全て神様の聖さとそのご性質を表すものです。外からは見えないものですが、見えない部分が重要なのです。また人には見ることが許されない神様ですが、それほど聖なるお方として、あがめつつ従いましょう。

私たちも主の宮です。見えない、心の内側が主のご性質を表すものであるように、心がけましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16日 火曜

列王 I



7:1 また、ソロモンは十三年をかけて自分の宮殿を建て、その宮殿のすべてを完成させた。

7:2 彼は「レバノンの森の宮殿」を建てた。その長さは百キュビト、幅は五十キュビト、高さは三十キュビトで、それは四列の杉材の柱の上にあり、その柱の上には杉材の梁があった。

7:3 また、四十五本の柱の上にある階段式脇間の屋根は、杉材で葺かれていた。柱は一列に十五本ずつあった。

7:4 戸口は三列あり、三段になって向かい合っていた。

7:5 戸口の扉と戸口の柱はすべて四角形で、三段になって向かい合っていた。

7:6 また彼は、柱の広間を造った。その長さは五十キュビト、その幅は三十キュビトであった。その前に玄関があり、その前に柱とひさしがあった。

7:7 また、さばきをするための王座の広間、すなわち、さばきの広間を造り、床の隅々から天井まで杉材を張り詰めた。

7:8 彼の住む家はその広間のうしろの庭にあり、同じ造りであった。ソロモンは、彼が妻としたファラオの娘のためにも、この広間と同じような家を建てた。

7:9 これらはすべて内側も外側も、のこぎりです法どおりに切りそろえられた、高価な石で造られていた。礎から軒に至るまで、さらに外庭から大庭に至るまで、そうであった。

7:10 礎は高価な石、大きな石で、八キュビトも十キュビトもあった。

7:11 その上には、寸法どおりに切りそろえら

れた高価な石と杉材が使われた。

7:12 大庭の周囲には、三段の切り石と一段の杉の角材が使われ、【主】の宮の内庭や、神殿の玄関広間と同じであった。

7:13 ソロモンは人を遣わして、ツロからヒラムを呼んで来た。

7:14 彼はナフタリ部族のやもめの子であった。彼の父はツロの人で、青銅の細工師であった。ヒラムは青銅の細工物全般について、知恵と英知と知識に満ちていた。彼はソロモン王のもとに来て、その一切の細工を行った。

7:15 彼は青銅で二本の柱を铸造した。片方の柱の高さは十八キュビト。もう片方の柱の周囲は、ひもで測って十二キュビトであった。

7:16 彼は青銅で铸造した二つの柱頭を作って、柱の頂に載せた。片方の柱頭の高さは五キュビト、もう片方の柱頭の高さも五キュビトであった。

7:17 柱の頂の柱頭に取り付ける、鎖で編んで房になった格子細工の網を、片方の柱頭に七つ、もう片方の柱頭に七つ作った。

7:18 こうして彼は柱を作り、柱の頂にある柱頭をおおうため、青銅のざくろが格子網の上を二段に取り巻くようにし、もう片方の柱頭にも同じようにした。

7:19 この玄関広間にある柱の頂にある柱頭は、ゆりの花の細工で、それは四キュビトであった。

7:20 二本の柱の上にある柱頭の格子網のあたりで、丸い突出部の周りには、二百個のざくろが、両方の柱頭に段をなして並んでいた。

7:21 この柱を本殿の玄関広間の前に立てた。

彼は右側に立てた柱にヤキンという名をつけ、左側に立てた柱にポアズという名をつけた。

7:22 この柱の頂の上には、ゆりの花の細工があった。こうして、柱の造作は完成した。

12節までは王宮の建設です。縦横 80 m と 40 m というのは神殿よりも大きく、「さばきの広間」など政治的な機能があるにせよ、神様を第一にすべきでした。彼の信仰 1 本でない生き方が、後にイスラエルに偶像を招いたのです。主のために最良のものをささげましょう。

ヒラムは王のヒラムとは別人です。父が異邦人ではありませんが、主に用いられました。統治や伝統よりも、主を第一にすべきです。それとともに、やがてソロモンが異邦の宗教を入れてしまったことも忘れてはなりません。主のみこころを第一として、伝統よりも主のためを第一としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 17日 水曜

列王 I

7:23 それから、彼は鑄物の「海」を作った。縁から縁まで十キュビト。円形で、高さは五キュビト。周囲は測り縄で巻いて三十キュビトであった。7:24 その縁の下に沿って、瓢模様が周りを取り巻いていた。一キュビトにつき十ずつの割合でその「海」の周りを取り巻いていた。この瓢模様の二段になっている、「海」を鑄たときに鑄込んだものである。7:25 「海」は十二頭の牛の上に据えられていた。三頭は北を向き、三頭は西を向き、三頭は南を向き、三頭は東を向いていた。「海」はこれらの牛の上に載せられていて、牛の後部はすべて内側を向いていた。7:26 「海」の厚さは一手幅あり、その縁は杯の縁のように、ゆりの花の形をしていた。その容量は二千バテであった。

7:27 彼は青銅で十個の台を作った。それぞれの台は長さ四キュビト、幅四キュビト、高さ三キュビトであった。7:28 この台の構造は次のとおり。台には鏡板があり、鏡板は枠にはめられていた。7:29 枠にはめられている鏡板の上には、雄獅子と牛とケルビムがあり、雄獅子と牛の上下にある枠の表面には花模様が施されていた。7:30 枠には、それぞれ、青銅の車輪が四つと、青銅の軸が付いていて、台の四隅には洗盤の支えがあり、その支えは洗盤の下にあって、それぞれの表面に花模様が鑄込まれていた。7:31 洗盤の口は冠の内側にある、一キュビト上に出ていた。その口は丸く、花模様の細工が施され、一キュビト半あった。またその口の上にも彫刻がしてあり、枠の鏡板は四角で、丸くなかった。7:32 四つの車輪は鏡板の下にあり、車軸は台に取



り付けられ、一つの車輪の高さは一キュビト半であった。7:33 その車輪の作りは戦車の車輪の作りと同じで、車軸も輪縁も輻も轂も、みな鑄物であった。7:34 それぞれの台の四隅には、四本の支えがあり、支えと台は一体となっていた。7:35 台の上には高さ半キュビトの丸い部分が取り巻いていて、その台の上の支えと鏡板は一体となっていた。7:36 その支えの表面と鏡板には、それぞれの場所に、ケルビムと雄獅子となつて椰子の木を刻み、その周囲には花模様を刻んだ。7:37 彼は以上のようにな十个の台を作った。それらはすべて同じように鑄造され、同じ寸法、同じ形であった。

7:38 それから、彼は青銅で十個の洗盤を作った。洗盤の容量はそれぞれ四十バテ、大きさはそれぞれ四キュビトであった。洗盤はそれぞれの台に一個ずつ、十個の台の上にあった。7:39 彼はその台の五個を神殿の右側に、五個を神殿の左側に置き、「海」を神殿の右側、東南の方角に置いた。

7:40 さらにヒラムは灰壺と十能と鉢を作った。こうして、ヒラムは、ソロモン王のために【主】の宮でなすべきすべての仕事を完了した。7:41 すなわち、二本の柱と、二本の柱の頂にある丸い柱頭、および柱の頂にある丸い二つの柱頭をおおう二つの格子細工、7:42 また、二つの格子細工に取り付ける四百個のざくろ、すなわち、柱の先端にある丸い二つの柱頭をおおうそれぞれの格子細工のための二段のざくろ、

7:43 また、十個の台と、その台の上の十個の洗盤、7:44 「海」一つと、その「海」の下の十二頭の牛、7:45 そして、灰壺と十能と鉢である。ヒラムがソロモン王のため、

【主】の宮のために作ったこれらのすべての物は、磨きかけた青銅であった。7:46 王は、ヨルダンの低地、スコテとツアレタンの間にある粘土の地でこれらを鑄造した。7:47 ソロモンは、すべての用具を配置した。非常に大量だったので、青銅の重さは量られなかった。

7:48 また、ソロモンは【主】の宮にあるあらゆる物を作った。金の祭壇と、臨在のパンを載せる金の机、7:49 内殿の前、右側に五つ、左側に五つ置かれる純金の燭台、金の飾り花、ともしび皿、芯切りばさみを作った。7:50 また純金の芯と、芯取りばさみ、鉢、平皿、火皿を純金で作った。至聖所に通じる神殿内部の扉のちようつがい、神殿の本殿に通じる扉のちようつがいも金で作った。

7:51 こうして、ソロモン王が【主】の宮のためにしたすべての工事が完了した。ソロモンは父ダビデが聖別した物、すなわち、銀、金、各種の用具類を運び入れ、【主】の宮の宝物倉に納めた。

19 節から、ゆりの花がありますが、それは謙遜の美しい象徴です。(雅歌) ヤキンとボアズと呼ばれた柱は、能力と継続を表しますが、この謙遜が必要。47 節までは聖所前の庭にあるものが記されています。聖所のものが金であるの対して、これらは鑄物や青銅。主のもとへ行くには謙遜が必要で、たとえ粗末なものでも、主に従って善きものをささげるなら、聖なる臨在に触れる。そのように祈り、決断して、生きましょう。

①神のみこころは？②どんな思いになりましたか？③生き方にどう適用しますか？④この世にあって何を実践しますか？

▶ 18日 木曜

列王 I

8:1 それからソロモンは、イスラエルの長老たち、および、イスラエルの部族のかしらたちと一族の長たちをすべて、エルサレムのソロモン王のもとに召集した。ダビデの町シオンから【主】の契約の箱を運び上げるためであった。

8:2 イスラエルのすべての人々は、エタニムの月、すなわち第七の新月の祭りにソロモン王のもとに集まった。

8:3 イスラエルの長老全員が到着すると、祭司たちは箱を担ぎ、

8:4 【主】の箱と、会見の天幕と、天幕にあったすべての聖なる用具を運び上げた。これらの物を祭司たちとレビ人たちが運び上げた。

8:5 ソロモン王と、王のところに集まったイスラエルの全会衆は、ともに箱の前に行き、羊や牛をいけにえとして献げた。その数はあまりにも多く、数えることも調べることもできなかった。

8:6 祭司たちは、【主】の契約の箱を、定められた場所、すなわち神殿の内殿である至聖所のケルビムの翼の下に運び入れた。

8:7 ケルビムは、箱の一定の場所の上に翼を広げるのである。こうしてケルビムは箱とその担ぎ棒を上からおおった。

8:8 その担ぎ棒は長かったので、棒の先が内殿の前の聖所からは見えていたが、外からは見えなかった。それは今日までそこにある。

8:9 箱の中には、二枚の石の板のほかには何も入っていないかった。これは、イスラエルの子らがエジプトの地から出て来たとき、

【主】が彼らと契約を結ばれた際に、モーセ



がホレブでそこに納めたものである。

8:10 祭司たちが聖所から出て来たとき、雲が【主】の宮に満ちた。

8:11 祭司たちは、その雲のために、立って仕えることができなかった。【主】の栄光が【主】の宮に満ちたからである。

48 節以降は聖所の用具であり、主の尊さを表すために金製です。高価なものですが、主の栄光のためには、惜しまずに良いものを用いることが必要なのです。

神殿は建物と設備ができて、それだけでは不十分です。主がおられなくては意味がありません。ソロモンは主の臨在を表す、「契約の箱」を運び入れ、また主とお会いするための「聖なる用具」を運び入れ、そして聖なる主をお迎えするために、罪の赦しをいただくための「いけにえ」をささげたのです。

主の恵をいただくためには、主をお迎えしなくてはなりません。礼拝、家庭、職場、学校、人生において尊いものをささげつつ、イエス様の十字架という「いけにえ」によって、主のもとへと近づきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶ 19日 金曜

列王 I

8:12 そのとき、ソロモンは言った。
「【主】は、黒雲の中に住む、と言われました。
8:13 私は、あなたの御住まいである家を、確かに建てました。御座がとこしえに据えられる場所を。」
8:14 それから王は振り向いて、イスラエルの全会衆を祝福した。イスラエルの全会衆は起立していた。
8:15 彼は言った。「イスラエルの神、【主】がほめたたえられますように。主は御口をもって私の父ダビデに語り、御手をもってこれを成し遂げて、こう言われた。
8:16 『わたしの民イスラエルをエジプトから導き出した日からこのかた、わたしは、わたしの名を置く家を建てるために、イスラエルの全部族のうちどの町も選ばなかった。わたしはダビデを選び、わたしの民イスラエルの上に立てた。』
8:17 それで私の父ダビデの心にはいつも、イスラエルの神、【主】の御名のために家を建てたいという思いがあった。
8:18 ところが【主】は、私の父ダビデにこう言われた。『あなたの心にはいつも、わたしの名のために家を建てたいという思いがあった。その思いがあなたの心にあったことは、良いことである。
8:19 しかし、あなたはその家を建ててはならない。あなたの腰から生まれ出るあなたの子が、わたしの名のために家を建てるのだ。』
8:20 【主】はお告げになった約束を果たされたので、私は【主】の約束どおりに父ダビデに代わって立ち、イスラエルの王座に就いた。



そしてイスラエルの神、【主】の御名のためにこの家を建て、
8:21 【主】の契約が納められている箱のために、そこに場所を設けた。その契約は、主が私たちの先祖をエジプトの地から導き出されたときに、彼らと結ばれたものである。」

「主は黒雲の中に住む」とは、すなわち主は見えないお方であり、人間のや観察で知りうることのできない、超越的なお方であるということです。その主が、ご自身を現してくださるとは、驚くべきことです。自分で主やみこころ、また真理を分ったつもりにならないで、謙遜になりましょう。

ソロモンは「イスラエルの神、【主】がほめたたえられますように。主は…これを成し遂げて」と言い、この大事業を自分の功績にはしませんでした。そこにもまた主がソロモンとイスラエルを祝福した要因があるのです。

全ては主の計画であり、力であり、恵であることを、明かにしましょう。自分の力や人徳が何かを成し遂げたというような表現をしないように、気をつけましょう。それはむしろ自分を高めることになるのです。それが主の一貫した価値観です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





8:22 ソロモンはイスラエルの全会衆の前で、【主】の祭壇の前に立ち、天に向かって両手を伸べ広げて、

8:23 こう言った。「イスラエルの神、【主】よ。上は天、下は地にも、あなたのような神はほかにありません。あなたは、心を尽くして御前に歩むあなたのしもべたちに対し、契約と恵みを守られる方です。

8:24 あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに約束したことを、ダビデのために守ってくださいました。あなたは御口をもって語り、また、今日のように御手をもってこれを成し遂げられました。

8:25 そこで今、イスラエルの神、【主】よ。あなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたことを、ダビデのために守ってください。

『あなたがわたしの前に歩んだように、あなたの子孫がその道を守り、わたしの前に歩みさえするなら、あなたには、イスラエルの王座に就く者がわたしの前から断たれることはない』とされたことを。

8:26 今、イスラエルの神よ。どうかあなたのしもべ、私の父ダビデに約束されたおことばが堅く立てられますように。

8:27 それにしても、神は、はたして地の上に住まわれるでしょうか。実に、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして私が建てたこの宮など、なおさらのことです。

8:28 あなたのしもべの祈りと願いに御顔を向けてください。私の神、【主】よ。あなたのしもべが、今日、御前にささげる叫びと祈りを聞いてください。

8:29 そして、この宮、すなわち『わたしの名をそこに置く』とあなたが言われたこの場所に、夜も昼も御目を開き、あなたのしもべがこの場所に向かってささげる祈りを聞いてください。

8:30 あなたのしもべとあなたの民イスラエルが、この場所に向かってささげる願いを聞いてください。あなたご自身が、あなたの御住まいの場所、天においてこれを聞いてください。聞いて、お赦してください。

ソロモンは「全会衆の前で」祈りました。それは神様が父ダビデに約束された内容に基づいたもので、その約束に基づいて祝福を願うものでした。私達も聖書のみことばに約束されたことに基づいて、主の祝福を大いに求めましょう。

またそれはソロモンの信仰の証しであり、王のしての所信表明にもなるものです。このように信仰者は、その生き方や方針を明らかにするためには、信仰を基盤とする必要があります。

またそれは王であっても、この神殿建築という大事業が、自分の力ではなく神様の力であるということを明らかにするもので、謙遜な姿でもあります。謙遜な者こそが、主の認めた指導者になれるのだと知りましょう。謙遜な者を人は慕い、また影響を受けるからです。

ソロモンは主をお迎えする神殿を建てたのに、「天も…あなたをお入れすることはできません。まして、私の建てたこの宮など、なおさらのことです。」と、まるで神殿が意味のないものであるかのようなことを言っています。しかしまた、「この所に向かってささげる願いを聞いてください。」と、そこに主がおられるようなことも言っています。

これは信仰の本質でもあります。主は私たち人間には及びも付かない、超越された方です。祈りも善行も知恵も、奉仕も、礼拝も、人間がする以上、神様にふさわしいはずがありません。しかし、神様は人間を愛して、人間の存在と営みを受け入

れてくださるのです。なんとという謙遜な全能者でしょうか。

大いに感謝しつつ、主に愛されていることを感じつつ、自分に与えられたわざに励みましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





8:31 ある人が隣人に罪を犯して、のろいの誓いを立てるよう求められ、この宮の中にある、あなたの祭壇の前に来て誓うなら、

8:32 あなたご自身が天でこれを聞き、あなたのもべたちにさばきを行って、悪い者にはその生き方への報いとしてその頭上に悪を下し、正しい者にはその正しさにしたがって義をもって報いてください。

8:33 あなたの民イスラエルが、あなたの前に罪ある者となって敵に打ち負かされたとき、彼らがあなたに立ち返り、御名をほめたたえ、この宮であなたに祈り願うなら、

8:34 あなたご自身が天でこれを聞き、あなたの民イスラエルの罪を赦し、あなたが彼らの先祖にお与えになった地に、彼らを帰らせてください。

8:35 彼らがあなたの前に罪ある者となって、天が閉ざされ雨が降らなくなったとき、彼らがこの場所に向かって祈り、御名をほめたたえ、あなたが苦しめたことによって彼らがその罪から立ち返るなら、

8:36 あなたご自身が天でこれを聞き、あなたのもべたち、あなたの民イスラエルの罪を赦してください。彼らの歩むべき良い道を彼らに教え、あなたの民に相続地としてお与えになったあなたの地に雨を降らせてください。

8:37 この地に飢饉が起こり、疫病や立ち枯れや黒穂病、いなごやその若虫が発生したときでも、敵がこの地の町々を攻め困んだときでも、どのようなわざわい、どのような病気であっても、

8:38 だれでもあなたの民イスラエルが、それぞれ自分の心の痛みを知って、この宮に向

かって両手を伸べ広げて祈るなら、どのような祈り、どのような願いであっても、

8:39 あなたご自身が、御座が据えられた場所である天で聞いて、赦し、また、かなえてください。一人ひとりに、そのすべての生き方にしたがって報いてください。あなたはその心をご存じです。あなただけが、すべての人の子の心をご存じだからです。

8:40 そうして、あなたが私たちの先祖にお与えになった大地の上で彼らが生き続ける間、いつもあなたを恐れるようにしてください。

ソロモンは、この神殿において主が働いてくださるように、具体的な祈りをささげました。祈りは具体的な方が良いのです。主にお願いですのだから、自分でも何を願ったのか、それがかなったのかどうか分からないような願いでは、主に期待しているとは言えないでしょう。また、その祈りによって、信仰が強められて主に従ったり前進したりということはできないでしょう。

祈りは具体的に、明確にしましょう。そして聞かれたら、はっきりとした思いで感謝しましょう。またそれは主の証しですから、明確なわざとして分かち合いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

